



ほびじゃとひそねとまそたん

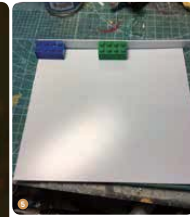
CHAPTER | 03 | 第8格納庫をイメージしDパイとまそたんのシーンを切り取る
ドラゴンの名前はまそたんになります



196

「第8格納庫」の中をイメージしたむーすけ氏の作品。主人公の甘粕ひそねと貝崎名緒のフィギュアも製作し、まそたとDパイの触れ合いを再現しました。さらにむーすけ氏がおまけとして製作した小さな手乗りまそたんも一緒に紹介します。P.192の偽装まそたんとともに、製作文もお楽しみください。

- ①セット全景。ベースの爪跡はリユーターで発勝負
- ②大きくて傑しそうなまそたんを表現すべく、ベースとフィギュアも作りました。スケールのサイズは合っていないのですが雰囲気出せばよし!
- ③④1/72スケール相当のフィギュア。貝崎さんは作りやすかったですが、ひそねは顔が似なくて、結局のつぼぼうで国谷氏に渡しました(ゴメンネ!)
- ⑤ベースは厚みを一定にするため、ブロックを使用しました
- ⑥おすわりまそたんひそね達のラフ状態
- ⑦通常時とコスプレ状態の違いはフィギュア中ではです
- ⑧⑨左右の羽のダメージ。いつものように、なんて考えちゃいます。こんな感じで設定面から試作しています。劇中では普段は両手も地面につけてまそね
- ⑩手乗りまそたん。ホントにいたらポケットに入れて連れ歩きたい(笑)



◀第8格納庫内の冷却用のプールから上がってくるエレベーターをイメージしてベースを製作



■ まそたん

可愛いF-15Jに変形しちゃうし、手元に欲しい!と製作開始。3Dモデルを出して作製。メタセコイア(ポリゴン系)とZBrush core(スケルトン系)の2つのソフトを使用しています。メタセコイアに設定面を表示し、それに合わせてポリゴンを置いていきバランスを合わせます。これを曲面化して、ZBrush core(粘土のように盛ったり削ったり出来ちゃう)に持っていく。顔や手足の爪などを作りました。出力はABS樹脂を積層していくタイプの3Dプリンター(Zortrax)を使用しています。コストが安いのが強みですが、出力品そのままでは例には使えません。かなりの表面処理が必要です。

飛行状態のまそたんは1話を観て作ったラフの状態で出力し、後で判明したディテールをエボバで追加造作しました。F-15Jになる、というイメージはあまり持たず、「キャラクターとして」造作しています。ディテールも画面に出てくるものだけ造作しました。トミーテック製のMIXの1/144スケールのF-15Jとキャンビーが偶然にも同じサイズだったので流用しています。まそたんのカラダの表面は、素材がアセトンで溶ける性質を活かして、一度ヤスリで仕上げた後、アセトンを塗り表面を溶かして筆で撫でてみたところ、ランダムにデコボコが生まれ、ある程度流れも付けられて面白い効果が出てる…ような気がしなくてもなく(笑)。

■ 塗装

まそたんは基本色を作り、暗い色と明るい色、白に近いハイライトを調整して塗装しています。偽装はシャドウを残してグレー単色で塗装しました。フィギュアの塗装を本誌のモデラーとしても馴染みの国谷氏にお願いして足りないクオリティの嵩上げを狙います(笑)。

■ 最後に

毎週密かに「ふともも」の出番を待ってます。他のドラゴン達も作って並べたいなあ。よし!作ろう!

■ むーすけ

本誌ではフルスクラッチ系の作例を多数掲載している実力派モデラー。3Dモデリングの技術も高い。

197